

日付:2016年7月17日／聖書:ペトロの手紙一4:10

説教:「賜物を献げる」

聖書によれば、私たちは、自分が気づこうが、気づくまいが、神さまからそれぞれに賜物を授かっています。誰もが賜物を授かっている、それも無償で、……これが第一のことです。ところで、ここで賜物と訳されているギリシャ語は、カリスマ。それは英語でもカリスマと言われ、日本語でもカリスマとして定着しています。但し、私たちの社会では、使われ方が本来のギリシャ語の意味とは違っています。ギリシャ語本来の意味は、神の恵み、神の恩恵の賜物、とあります。一方、日本社会でのカリスマは、「神の」という所有各なしのいわば、超人間的な力をもつ資質という意味に使われています。…超人間的な資質がどこから出てきたか、それには関心がありません。

そして「神のさまざまな恵みの善い管理者として」、というのは、実は神さまから戴いている賜物と理解して差し支えありません。…ですからこれは戴いている賜物の良い管理者になるということです。良い管理者とは、まず、神さまから戴いた賜物がある、ということを経験し、それが自分に預けられている、ということを経験し、それ故、…それを神さまと隣人の為に用いる人、…だということです。…であるなら、恵みの善い管理者とは、すなわち善い奉仕者のことでもあります。…なぜなら、善い奉仕者の奉仕の動機は、言うまでもなく、…その働きが自分自身の為にあるのではなく、…「神さまの為に」、というしっかりした信仰に立っているからです。…聖書、使徒言行録には、「計画や行動が人間からでたものなら、自滅するだろし、神からでたものならば、彼等を滅ぼすことは出来ない」、とあります。…これは神さまの為に、と神に動機づけられない奉仕の虚しさを教えてくれます。…では何が神さまへの奉仕となるのか、…単純には、…そこに祈りの心があるかないか、それが見分けの徴でありましょう。…祈りの心がある時、…それは神さまへの奉仕となって行く、…そう言って差し支えないでしょう。

教会は仕事するところではなく、賜物を用いて、…奉仕するところです。…喜びのない奉仕、…感謝のない奉仕、…ラン先生は、「そういう奉仕なら、…しない方がいい」と言われます。過激な発言だな、と思っていました、…多分、神さまから出た奉仕なら喜びも感謝も必ずある、と今はそう信じていますので、その通りだと思います。そしてまた、…喜びのない、感謝のない、そういう奉仕を、…「神さまは喜ばれるだろうか？ きっと神さまは喜ばれないだろう」とそう思うのです。…最後の、「互いに仕えなさい」、というのは、…そういう姿勢で仕えなさい、という意味でしょう。(梅崎)